

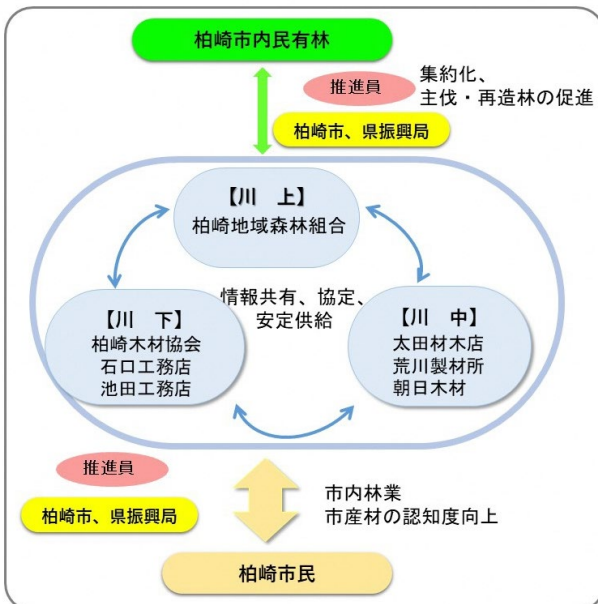
柏崎地区における循環施業と木材利用の取組

～「柏崎地区つなぐプロジェクト」3年間の取組～

1 テーマの趣旨・目的

本県は、森林の多面的機能が発揮され、森林資源を循環利用した持続的な産業の振興と山村地域の維持活動が順調に行われる姿を目指し、令和4年3月に「新潟県森林・林業基本戦略」を策定した。基本戦略で目指す姿を実現するための方策の一つとして、森林所有者から消費者までをつなぐ仕組みをつくり、関係者が一体となって県産材の供給・利用拡大に向けて取り組む「つなぐプロジェクト」を県内各地で展開している。

柏崎地区では、県内でいち早くプロジェクトを立ち上げ、森林の資源循環及び柏崎市産材の活用促進に向けて川上～川中～川下の関係者が連携して各種取組を行ってきたので、その取組内容を紹介する。



「柏崎地区つなぐプロジェクト」構成図

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

(1) 現状

当地区の川上で素材生産を担っている森林組合は、これまで利用間伐主体の素材生産体制であったことから、

素材生産に占めるA材率が低い。

川下の市内工務店や設計者はプレカット材の使用が標準であり、市産材活用に関する意識は低い。

(2) 取組内容と成果

「利用間伐から主伐再造林への転換」、「柏崎市産材利用のための体制構築」、「市民への認知度向上」を目指し、各種取組を実施した。

① 素材生産拡大とA材率の向上

- ・主伐再造林の取組を強化するにあたり、県内の先進地で研修会を開催し、ノウハウ等を学んだ。
- ・新規参入事業者等へのスギコンテナ苗の植栽技術研修を実施し、再造林の労働力の確保を図った。
- ・主伐再造林現場を活用して造材研修を行い、川中、川下が望む材を現場で目合せすることで、A材率の向上を図った。



主伐再造林現場で行った造材研修

② 木材の流通と活用

- ・市産材を利用した住宅の上棟研修会を開催し、材の特徴に合わせた利用方法を学ぶことで、工務店等が市産材を使うことへの意識向上を図った。
- ・製材所が開発したICタグの利用方法を学ぶ現地研修を実施し、トレーサビリティの推進を図った。
- ・川上、川中、川下の事業者がそれぞれのフィールドを

活用した現地研修会等に参加することで、具体的にどのような仕事をしているか相互理解を深め、木材利用拡大に向けた連携強化を推進した。



市産材を利用した住宅の上棟研修会

③ 普及啓発

- ・市民（親子）向けの森林体験イベントを開催し、林内散策や伐採見学、木工体験等を通して、林業・木材産業を身近に感じてもらうことで、住宅建築の施主となる世代へ市産材普及啓発を図った。
- ・小中学校等の教育機関と連携し、将来の消費者や担い手となる世代に対し、出前講座等の教育活動を行った。
- ・市民講座の活用や木育活動を実施する団体と連携したワークショップの開催や SNS 等での情報発信により、幅広い年代の市民に対し、普及啓発を図った。



親子森林体験会における木工体験

④ 行政の取組

- ・市有林で主伐再造林に取り組み、生産された木材を公共建築物（市営の子ども遊び場施設等）で積極的に展示・活用し、市民への普及啓発を図った。
- ・森林環境譲与税を活用して森林組合職員の労働環境改

善支援を行い、新規雇用の促進及び定着率の向上を図った。



市営の子ども遊び場施設における市産材活用

(3) 課題

A材供給力強化と森林資源の循環利用を図るため、これまでの柏崎市有林に加え、私有林での主伐再造林の取組拡大による事業量の確保が必要である。

また市産材の活用を進めるため、これまで取り組んできた普及啓発活動に加え、需要の拡大に直接つながる取り組みを行う必要があると考える。

3 今後取組むべき内容

川上からの供給拡大をさらに増やしていくため、森林組合と民間事業者との連携を強化していくことで供給体制の強化を図り、国の花粉症対策を踏まえた、主伐再造林主体の素材生産拡大を目指す。

需要の拡大については、川下の工務店等との連携をさらに広げて、地域材の需要拡大を図りたい。そこで、新たな需要創出策として、柏崎市内の企業オフィスの内外装を木質化する事業を検討中である。子ども遊び場施設に導入したフローリングの効果検証と合わせて、実現に向けた検討を進めていきたい。

これらの取組とあわせ、イベント等の普及啓発活動を継続し、市民への認知度向上にも引き続き取り組んでいきたい。